

シラヒゲウニの種苗放流調査*1

島袋 新功・宮城 正和*2

1. 目的

シラヒゲウニは重要な沿岸漁業資源で、近年のウニ漁業の低迷に伴い、本県では栽培漁業適種として種苗生産技術の開発や漁場造成などを行っている。県栽培漁業センターではシラヒゲウニの種苗生産技術が向上し、放流種苗が数万単位で生産できるようになった。

本調査では、シラヒゲウニの種苗放流と追跡調査を行うことにより放流技術を開発し、シラヒゲウニの資源増大と漁業生産拡大を図る。

2. 方法

放流種苗は、栽培漁業センターで種苗生産・中間育成した人工種苗を使用した(表1)。種苗の輸送は、主に中間育成用に使用したネトロンネット生け簀に餌料海藻と共にトラックで陸上輸送、次いで漁港から放流現場まで船上輸送した。

種苗の放流は、予め張ったモズク網やネトロンネット(放流区)の下に、種苗を海藻と共にできるだけ分散させるようにして放流した。

放流種苗の追跡調査は、放流区を中心にメートル縄を十字に各200m引いた調査測線を設定し、測線に沿って1m幅内に生息するシラヒゲウニの殻径を測定するトランセクト・潜水調査を行った。

3. 結果

1994年2月から1995年3月までに、計8回の種苗放流を行った(表1)。

表1. シラヒゲウニの種苗放流概要

年/月/日	個数	平均殻径mm	場	所
94/ 2/15	10,150	30.2	今帰仁村古宇利島	
3/15	3,000	29.2	本部町新里	
4/28	3,450	30.0	恩納村仲泊	
8/18	3,887	10.0	沖縄市泡瀬	
95/ 2/ 7	5,100	24.9	今帰仁村古宇利島	
3/16	18,378	11.7	"	"
3/18	18,208	11.7	与那城村伊計島	
3/27	3,112	10.1	"	宮城島

シラヒゲウニの寿命が約2年で、追跡調査は次年度までまたがるため、放流結果については次の報告書でまとめる予定である。

*1本報告は、ウニ礁種苗放流調査(シラヒゲウニ)・とウニ餌料藻類の増殖試験調査(藻場造成)予算で行った。

*2臨任職員、現所属：沖縄県漁業共同組合連合会